

誌上で再現

ダンボール箱で堆肥をつくろう！！

手稲区では、「生ごみリサイクルによる循環型地域形成推進モデル事業」の一環として、循環（くるくる）ネットワーク北海道の中家さん、中村さんを講師に迎え、ダンボール箱による生ごみ堆肥化の講習会を9月28日に開催しました。ここではその講習会の内容をお伝えします。

① 準備するもの



みかん箱大のダンボール箱…2箱
（縦30cm,横45cm,高さ30cm程度のもの）
木片などの箱の底を浮かせるもの
もみがらくん炭 10kg
ピートモス 15kg
シャベル、温度計（100℃用）など

② 箱を組み立てよう



ダンボールの上ふたを立てて、紙テープで四隅をとめましょう。補強のためにダンボールを下に敷くとよいでしょう。残りのダンボール箱でふたを作ります。置く場所は床や壁などから5cm以上離しましょう。

③ 基材を入れよう



もみがらくん炭とピートモスを2:3の割合でダンボール箱の半分くらいまで入れ、よく混ぜ合わせます。

④ 生ごみを入れよう

1日平均500g位の生ごみを入れられます。生ごみを入れた後はよくかき混ぜてください。始めてから1～2週間で温度が30℃台に上昇します。とうもろこしの芯やぶどうのつるなどは分解しにくいので、基材に入れない方がよいでしょう。



⑤ 堆肥として使おう

基材はおよそ3カ月間使用できます。使用後もたまたまかき混ぜることを続けてください（この段階ではまだ分解を続けています）。使用後、さらに3カ月程度経つと完熟し、堆肥として使用することができます。使用量は1㎡当たり1kg程度を目安としてください。



中家さん、中村さんからのワンポイント・アドバイス



▲中村さん

- ・生ごみを投入しなくても1日1回はかくはんしましょう。
- ・分解が順調に進めば、山の土のようなにおいがします。
- ・3カ月間使用しても体積はほとんど変わりません。
- ・水分は50%くらいが適当です。目安は、握ると固まってからポロポロ崩れる状態です。
- ・虫が発生した場合は油や糖類、きな粉などを入れ内部の温度を高くすると死滅します。 ▲中家さん
- ・冬は室内のあまり寒くない場所に置きましょう。室温が15度以上ないと分解が進みにくくなります。
- ・堆肥として使う場合は完熟させてから使用してください。完熟しないうちに使用すると植物の根が傷み、枯れてしまう場合があります。



生ごみ堆肥の公共活用を進めましょう

このように手稲区では、生ごみを堆肥化し、さらにその堆肥を家庭だけでなく公共施設で活用しようというエコスタイルの在り方を提案しています。

そこで、ダンボール箱による生ごみの堆肥化を始めたいという方には以下のお問い合わせ先でご購入いただけますのでぜひご利用ください（循環ネットワーク北海道でご購入いただく場合は事前に電話連絡が必要です）。

※もみがらくん炭やピートモスはホームセンターで購入することもできます。

今回取り上げた「ダンボール箱による生ごみ堆肥化」のお問い合わせ先

循環ネットワーク北海道 北) 北7条西1丁目1-11 パームハイツ札幌201 ☎709-5751
月曜日～金曜日 午前10時～午後3時

リサイクルプラザ 西) 宮の沢1-1 ちえりあ1階 ☎671-4153
月曜日休館（祝日の場合は翌日） 午前10時～午後6時

